

I 調査結果概要

県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、持ち直しの動きに足踏み感がみられる。先行きについては慎重さがみられる。

- 経営者の景況感D Iは、▲50.2と、前期比で2.1ポイント減少し、2期ぶりに悪化した。業種別では、製造業は2期連続改善し、非製造業は2期ぶりに悪化した。
- 景況感の先行きD Iは▲23.3と、前回調査比で2.8ポイント減少し、2期ぶりに悪化した。
- 売上げD I、資金繰りD I及び採算D Iは2期ぶりに悪化した。
- 設備投資の実施率は20.3%で、2期連続増加した。
- 来期については、売上げD I、資金繰りD I及び採算D Iは当期D Iより改善する見通しである。また、設備投資の実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、D Iを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和4年4～6月期、「当期」：令和4年7～9月期、「来期(先行き)」：令和4年10～12月期

1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感D Iは▲50.2となり、2期ぶりに悪化した。前期比で2.1ポイント減少し、前年同期比では6.4ポイント増加した。

業種別にみると、製造業(▲48.9)は2期連続改善し、非製造業(▲51.2)は2期ぶりに悪化した。

〈景況感D Iの推移〉

	当期 (R4.7-9)	前期 (R4.4-6)	前年同期 (R3.7-9)
全体	▲50.2	▲48.1	▲56.7
製造業	▲48.9	▲49.6	▲50.9
非製造業	▲51.2	▲47.1	▲61.1

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は7.0%（前回調査(R4.4-6月)比▲0.2）、「悪い方向に向かう」とみる企業は30.2%（前回調査比+2.6）だった。先行きD Iは▲23.3（前回調査比▲2.8）と、2期ぶりに悪化した。

〈来期の見通し〉

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きD I (R4.10-12)
全体	7.0%	30.2%	▲23.3
製造業	8.5%	28.1%	▲19.7
非製造業	5.9%	31.8%	▲25.9

2 売上げについて

売上げD Iは▲29.1（前期比▲8.9）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより改善する見通しである。

〈売上げD Iの推移〉

	当 期 (R4. 7-9)	前 期 (R4. 4-6)	前年同期 (R3. 7-9)	来期見通し (R4. 10-12)
全 体	▲29.1	▲20.3	▲34.6	▲10.6
製 造 業	▲25.2	▲20.8	▲27.6	▲7.2
非製造業	▲32.1	▲19.9	▲39.9	▲13.1

3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲28.1（前期比▲6.6）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより改善する見通しである。

〈資金繰りD Iの推移〉

	当 期 (R4. 7-9)	前 期 (R4. 4-6)	前年同期 (R3. 7-9)	来期見通し (R4. 10-12)
全 体	▲28.1	▲21.5	▲28.4	▲20.6
製 造 業	▲29.2	▲24.8	▲23.3	▲20.2
非製造業	▲27.2	▲19.1	▲32.3	▲21.0

4 採算について

採算D Iは▲40.6（前期比▲5.0）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業は3期連続で悪化し、非製造業は2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより改善する見通しである。

〈採算D Iの推移〉

	当 期 (R4. 7-9)	前 期 (R4. 4-6)	前年同期 (R3. 7-9)	来期見通し (R4. 10-12)
全 体	▲40.6	▲35.7	▲39.2	▲26.6
製 造 業	▲41.7	▲40.2	▲33.8	▲24.0
非製造業	▲39.8	▲32.4	▲43.3	▲28.6

5 設備投資について

実施率は20.3%となり、2期連続増加した。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期連続増加した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の実施率より減少する見通しである。

〈設備投資の実施率〉

	当 期 (R4. 7-9)	前 期 (R4. 4-6)	前年同期 (R3. 7-9)	来期見通し (R4. 10-12)
全 体	20.3%	19.5%	19.7%	17.5%
製 造 業	23.5%	22.6%	22.6%	23.2%
非製造業	17.9%	17.4%	17.5%	13.3%

6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP13以降を御覧ください）

【現在の景況感】

- （一般機械器具）・半導体製造装置向けの受注は安定しており、好況である。
- （輸送用機械器具）・受注は増えているが、材料の出荷遅れや値上がりの影響が大きく、普通である。
- （プラスチック製品）・オフィス、建設向けの受注が安定しており、好況である。
- （食料品製造）・原材料価格の高騰が続いており、不況である。
- （百貨店）・業界全体では回復傾向にあるが、コロナ禍前ほどではない。
- （商店街）・コロナ禍でも一定の来街者がおり、景況感は普通である。
- （情報サービス業）・エネルギーコスト増加の影響で企業の経費削減、情報化投資の抑制がみられる。
- （建設業）・民間の大型案件は価格高騰の影響で不透明感が出てきている。

【売上げ・採算】

- （電気機械器具）・5G関連を取引している中国企業からの受注が減り、売上高が減少した。
- （プラスチック製品）・電気代高騰の影響が大きく、採算性は悪くなった。
- （食料品製造）・OEM商品の価格転嫁が進まず、採算性は悪くなった。
- （印刷業）・資材価格高騰の一方で価格転嫁が進まず、採算性は悪くなった。
- （百貨店）・電気代高騰と仕入単価の上昇で採算性は悪くなった。
- （情報サービス業）・DX関連のプロジェクトを継続的に受注しており、売上高はほとんど変わらない。

【今後の見通し】

- （一般機械器具）・中国の感染症や電力不足の影響など不透明な部分が多く、どちらともいえない。
- （輸送用機械器具）・10月以降、乗用車の生産は上向くとみている。
- （食料品製造）・原材料費の高騰は今後も厳しい状況が続き、悪い方向に向かうとみている。
- （銑鉄铸件）・ウクライナ情勢と感染症の収束が見通せず、どちらともいえない。
- （商店街）・感染症の収束次第だが、期待を込めて良い方向に向かうとみている。
- （旅行業）・県民割は延長となるが、企業や団体旅行の回復は不透明でどちらともいえない。
- （建設業）・資材価格高騰の影響で設備投資を控える動きが予想され、どちらともいえない。